

高温に対応した管理の徹底を！

- 連日高温が続いており、今後も平年より高温になる予想です。
- 基肥一発体系でも葉色が淡い場合は追肥を施用しましょう。
- 出穂前後各3週間は常時湛水管理を行いましょう。
- 最新の防除情報等を参考に適切な病害虫防除を実施しましょう。

1 収量・品質向上のため基肥一発体系でも追肥を検討しましょう

判断基準（「コシヒカリ」60株/坪植えの場合）

- ・出穂11日前頃までの葉色が淡い（葉色板4（SPAD値で36）以下）
- ・幼穂形成期の茎数が多い（25本/株以上）

施用時期

出穂11日前～4日前

施用量

窒素成分1～2kg/10a

- ※ 環境こだわり農産物では合計化学肥料窒素成分4kg/10a以内を順守してください。
- ※ 施用時期が遅れると食味が低下するため注意しましょう。
- ※ いもち病や倒伏の発生が懸念されるほ場では施用しません。

2 適正な水管理を実践しましょう

- ・出穂前後各3週間は3～5cmの浅水での常時湛水管理を行いましょう。
- ・常時湛水管理は白未熟粒や胴割粒の防止、カドミウム吸収抑制に有効です。
- ・すでに梅雨明けとなっていることから、必要以上の取水にならないよう、適切な用水利用に努めましょう。

3 斑点米カメムシ類の発生に注意しましょう

- ・近年、斑点米カメムシ類の発生が増加しており、今年も発生量は平年よりやや多いと予想されています。（7月8日発表病害虫発生予報第6号）。
- ・畦畔2回草刈りと薬剤防除を実施し、斑点米の発生を防ぎましょう。
- ・カメムシの種類や使用する薬剤によって散布適期が異なるため、注意が必要です。



熱中症にご注意ください！！

予防のポイント

- ①暑い時間帯の作業を避ける
- ③単独作業を避ける

- ②こまめな休憩と水分補給
- ④熱中症対策アイテムの活用

次回：8月8日頃発信予定